

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 「学力の向上」と「希望進路の実現」の達成</p>	<p>(成果)</p> <p>1 京都大学5名、大阪大学5名をはじめ神戸大学4名、名古屋大学3名、京都工芸繊維大学5名、京都府立大学5名など、国公立大学に97名が合格し、関関同立には96名（のべ人数）が合格するなど、多数合格した。また、大阪大学の医学部医学科をはじめ、国公立の医学部医学科2名、私立大学の医学部医学科1名等、本校の進路指導の実績を積み上げることができた。</p> <p>2 探究活動を授業だけでなくキャリアプログラムと融合させて深い学びを実践し地域連携やキャリア教育につなげることはもちろん全国大会等での発表も行った。</p> <p>3 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校の取組として、京都府北部の3校で地元地域において成果発表会を設けたり、他の発表会にも参加したりして交流を深めた。</p> <p>4 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業の共同実施校としてスマートAPの連続講義等に積極的に参加し、イノベティブなグローバル人材育成の機会となった。</p> <p>5 部活動加入率は78%で文武両道を実践する者も多く、近畿大会や全国大会で活躍をする生徒もあった。</p> <p>6 進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習等など、学年部と進路指導部、教科担当を中心に学校全体で取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 中高一貫教育校のよさを活かし、教育活動の充実を図るとともに生徒たちの活動する姿を効果的に発信することで本校の魅力を伝え、生徒募集にもつなげていく。</p> <p>2 「主体的・対話的で深い学び」を実施し、生徒が社会で力強く生きていくための素養を育成していく。</p> <p>3 1人1台学習用端末の効果的な活用をはじめとしたICTの有効活用を進め、深い学びを実践していく。</p> <p>4 教職員にとってはもちろん、子どもたちに豊かな教育をおこなうためにも働き方改革を進めていく。</p> <p>5 防災意識を高め、学校が生徒及び教職員にとって安心安全な教育の場であり続けるように努めていく。</p>	<p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、確かな学力を育む。</p> <p>(2) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(3) 自ら目標を設定させ、主体的に学習に向かう姿勢を育むことにより、一人ひとりの希望進路実現を目指す。</p> <p>2 特色ある取組の充実</p> <p>(1) 普通科「みらい考」や文理科学科「みらい学」をより一層充実させ、社会や地域の課題を自分事として捉え、課題解決に向けて行動する姿勢を養う。</p> <p>(2) 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校として、理数系教育の充実を図る。</p> <p>(3) WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業の成果を活かし国際理解教育の機会を充実させグローバル人材の育成を図る。</p> <p>(4) 医学進学・教員養成・国際理解・地域連携の各プログラムをはじめとするキャリア教育を充実させ、将来や社会への理解を深め、進路意識を高める。</p> <p>3 豊かな心を育む教育の実現</p> <p>人権意識を高め、自他を敬愛する心やいのちを大切にすること、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を育成する。</p> <p>4 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌・教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>5 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>6 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域連携やボランティア活動等を通して、地域や社会の一員であることをことを自覚させ、使命感を持たせる。</p> <p>7 中高一貫教育の推進</p> <p>中高6年間を見据えて資質・能力を育成するとともに、中高一貫教育校のよさを活かして全体の活性化を図る。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題																
組織・運営	<p>これからの社会で必要とされる資質、能力育成のための「主体的・対話的で深い学び」の実現及び理数教育の充実を図るとともに、BYOD等のICT有効活用を組織的に取り組み推進する。</p>	<p>みらい考やみらい学をはじめとする教育活動全般を通して「主体的・対話的で深い学び」を実践するとともに科学的な探究活動を通じて理数教育の充実を図る。また、ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>[主体的・対話的で深い学びを実践したという割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75%以上</td> <td>74~60%</td> <td>59~45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p>[ICTを授業等で積極的に活用したという割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75%以上</td> <td>74~60%</td> <td>59~45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	75%以上	74~60%	59~45%	44%以下	A	B	C	D	75%以上	74~60%	59~45%	44%以下	A	B	<p>主体的・対話的で深い学びを実践したという割合は82%と高い値であったが、全体での実施とはならず、内容の深化も含め、校内態勢で更に取組を継続して行く必要がある。</p> <p>科学的な探究活動については「みらい探究部」と自然科学部を中心に大学等との連携をしながら発展した。</p> <p>教職員対象内部評価アンケートでは、「ICTを授業等で積極的に活用した」の割合が58%と昨年より低下した。1・2年生のBYODがスタートしたことを考えれば、活用の充実が急務である。</p> <p>「自己の資質・能力が向上したと実感した」割合が70%と昨年より低下した。一方、「分掌間や教科内の連携」についての割合は75%と昨年より上昇した。学校評価アンケートでの「高校と附属中との協同活動」についての保護者のプラス評価が57%で上昇、生徒のプラス評価が53%と低下した。生徒たちが感じるレベルの附属中と高校の連携を含めた校内の連携をより推進していくことが、教育活動の充実につながっていくと考えられる。</p> <p>学校評価アンケートの「魅力的な学校」に関する生徒・保護者からのプラス評価が80%以上であり、今年、ホームページ等広報の充実についても生徒、保護者ともに75%以上となった。更に学校で実施している生徒の輝く姿を効果的に発信していくことがより重要であると考えられる。</p>
	A	B	C	D																	
	75%以上	74~60%	59~45%	44%以下																	
A	B	C	D																		
75%以上	74~60%	59~45%	44%以下																		
<p>生徒の確かな学力を育むための教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のために、中高の連携及び分掌や教科、個人の連携を密にし、教育活動に取り組む。</p>	<p>学習や生徒指導、学校運営等において、附属中を含む各教科や各分掌、個人間で連携を深め、教育活動及び業務の改善化を図るとともに、個々の教職員の資質・能力の向上に繋げる。</p> <p>[自己の資質・能力が向上したと実感した割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75%以上</td> <td>74~60%</td> <td>59~45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p>[学校評価アンケート『[附属中と福高のコラボ]に関するプラス評価の平均値]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75%以上</td> <td>74~60%</td> <td>59~45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	75%以上	74~60%	59~45%	44%以下	A	B	C	D	75%以上	74~60%	59~45%	44%以下	B	C		
A	B	C	D																		
75%以上	74~60%	59~45%	44%以下																		
A	B	C	D																		
75%以上	74~60%	59~45%	44%以下																		
<p>学校の魅力を高めるとともに、その魅力を生徒・保護者が実感できるものとする。また、その魅力を外部に効果的に発信する。</p>	<p>授業や課外活動、特色ある取組を更に充実させ生徒・保護者にとって充実感を感じるものとするとともに、その魅力を様々な手法を用いて地域の方々に効果的に発信していく。</p> <p>[学校評価アンケート『本校の取組が十分に発信されている』の評価のプラス評価の平均値]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75%以上</td> <td>74~60%</td> <td>59~45%</td> <td>44%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	75%以上	74~60%	59~45%	44%以下	A											
A	B	C	D																		
75%以上	74~60%	59~45%	44%以下																		

教務部	<p>学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。</p>	<p>学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。          [授業アンケート（自己評価アンケート）中の『③自分は、自分の学習活動を振り返り、工夫や改善をしながら、粘り強く取り組んでいる』          『①授業の準備をし、意欲的に取り組んでいる』の項目の平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0～3.5</td> <td>2.5～2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下	<p>B ③3.31 ①3.36</p>	<p>新指導要領に対応するため、授業公開週間、研修会等を活用し、授業改善、ICT活用の研修機会を例年通り設定した。また、生徒向けに、学力向上のため、ガイダンスを1年で2回、2年で2回、3年で1回実施したほか、教務部通信で生徒に学力向上等に関する喚起を行った。</p> <p>ICTを活用した新しい授業形態の研究と授業改善の意識が向上したと感じる一方で、さらに、教員一人ひとりの働き方の工夫、組織的な取組の必要性も感じた。</p> <p>授業アンケート中の、質問『学習活動に意欲的に取り組んでいる』生徒の自己評価は全体で3.36/4であった。          (昨年3.4、一昨年3.3)</p> <p>新課程2年目が終わり、観点別評価の方法と検証、Classiの活用を含む1人1台端末の活用について、引き続き、各分掌、学年、教科、学校全体で共有し、研修する時間が必要と感じる。</p> <p>昨年度から継続して補充考査のありかた改善に取組、1学期補充考査の合格率は93%（昨年度70%、一昨年度71%）、2学期の補充考査の合格率は92%（同81%、同88%）であった。</p> <p>生徒の学力向上と希望進路実現、教員の業務改善をさらに進め、来年の新課程の完成年度に向けて引き続き取り組みたい。</p>
	A	B	C	D								
	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下								
<p>新教育課程2年目となり、生徒が『主体的、対話的で深い学び』を実感し、学力の伸長の実現のため、情報提供や研修を進める。</p>	<p>学習指導の改善が生徒の学習意欲・学力向上に繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。          [学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組のプラス評価の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>98%以上</td> <td>94%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	98%以上	94%以上	90%以上	90%未満	<p>C 92.7</p>		
A	B	C	D									
98%以上	94%以上	90%以上	90%未満									
<p>個に応じた指導を大切にし、成績不振による単位不認定をなくす。</p>	<p>丁寧な学習指導や個に応じた指導を進め、成績不振による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。          [成績不振による単位不認定者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～2人</td> <td>3～4人</td> <td>5人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～2人	3～4人	5人以上	<p>A</p>		
A	B	C	D									
0人	1～2人	3～4人	5人以上									
生徒指導部	<p>安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理(遅刻指導)と社会的マナー意識(身だしなみ等)の向上を図る。</p>	<p>・【遅刻指導】学年団と連携しながら多角的に指導することで、余裕をもった登校を促す。          ・【あいさつ指導】全教職員で協力し、身だしなみを含め、日頃のあいさつが積極的にできる生徒に育てる。</p>		<p>規範意識等：生徒89.9%/保護者86.4%          通学マナー：生徒69.0%/保護者75.2%          部活動：生徒91.9%/保護者81.9%          ボランティア：生徒74.2%/保護者58.7%          学校行事：生徒88.2%/保護者89.4%</p>								

	<p>[学校評価アンケート『規範意識・挨拶・マナーは向上しているか』における『よくあてはまる・あてはまる』の生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="786 217 1352 288"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>90%以上</td><td>89~70%</td><td>69~50%</td><td>49%以下</td></tr> </table> <p>-----</p> <p>・携帯情報端末、特にSNSの利用などにおける情報モラルに関する規範意識を高める。 [HR掲示や放送、集会などを利用し情報モラルに関する啓発活動を行う回数]</p> <table border="1" data-bbox="786 472 1352 544"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>10回以上</td><td>9~8回</td><td>7~6回</td><td>5回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	49%以下	A	B	C	D	10回以上	9~8回	7~6回	5回以下	<p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>(部活・ボラ・行事の平均80.5)</p> <p>遅刻指導や規範意識の向上は、昨年度に比べて改善できた。SNS利用に関する啓発活動はほとんどできていない。</p> <p>交通マナーの向上に関しては、PTA生活安全部と行った登校指導や生活委員による朝の施錠運動、みらい考の交通マナーの向上の取組もあり、生徒の意識や保護者からの評価は向上した(昨年70.7%・今年72.1%)。命に関わる大きな交通事故は無かったものの、今後も登下校時の交通安全には注意を払いたい。</p> <p>生徒会活動について、今年度はコロナ渦で取り入れたことを生かしながら以前の形に戻した。委員会活動を活発にし、それぞれの分野で積極的に活動することができた。また執行部においても能登半島地震における義援金の活動などを行い、学校内外を問わず活動した。</p> <p>学校祭では熱中症を考慮し4日間の開催で行った。ボランティアに関しては、のべ113人の生徒がボランティアに参加した。</p>
A	B	C	D																
90%以上	89~70%	69~50%	49%以下																
A	B	C	D																
10回以上	9~8回	7~6回	5回以下																
<p>学校生活が安心、安全なものとなるよう、特に交通安全について意識の向上を図る。</p>	<p>・交通事故を防止し、交通マナーの向上を進める啓発活動を継続的に行う。 [学校評価アンケート『通学マナーはよいか』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="786 735 1352 807"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80%以上</td><td>79~60%</td><td>59~50%</td><td>49%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~50%	49%以下	<p>B</p>									
A	B	C	D																
80%以上	79~60%	59~50%	49%以下																
<p>「5K力」の育成のため、特別活動(生徒会活動・部活動・ボランティア活動)の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。</p>	<p>・生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。 ・多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。 [学校評価アンケート『部活動・ボランティア・学校行事の充実度』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1" data-bbox="752 1070 1319 1142"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>90%以上</td><td>89~70%</td><td>69~50%</td><td>49%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	49%以下	<p>B</p>									
A	B	C	D																
90%以上	89~70%	69~50%	49%以下																
<p>進路指導部</p>	<p>生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</p>	<p>第3学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る 進路希望調査(4月)で国公立大学を志望した生徒の国公立大学合格率</p> <table border="1" data-bbox="752 1318 1319 1390"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59~50%</td><td>49~40%</td><td>40%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59~50%	49~40%	40%未満	<p>A</p>	<p>第3学年部と密に連携をとり、3年生の教科担当者だけではなく、小論文、面接指導など学校全体で生徒一人一人に対応した進路指導を進めることができた。進路希望調査(4月)で国公立大学を志望した生徒は143名おり、その後の進路検討を経て最終合格者は89名(4月志望者に対し62%)であった。</p>							
A	B	C	D																
60%以上	59~50%	49~40%	40%未満																

	1、2年生の進路意識を向上させる。	<p>夢を抱いて頑張る生徒を育成する。 [11月実施の1・2年生進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0～3%</td> <td>3～5%</td> <td>5～7%</td> <td>7%以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0～3%	3～5%	5～7%	7%以上	C	<p>B 今後も生徒の進路実現に寄り添う支援を発展的に続けてきたい。 希望進路未定の生徒は4月に94名（平均値21.4%）いたが、11月実施では25名（平均値5.8%）となった。例年より高い数値となったが、4月以降多くの生徒が未定から自分の進路を見据えることができたと言える。今後は主体的な進路選択を一層サポートできる体制づくりに努めていきたい。</p>
A	B	C	D									
0～3%	3～5%	5～7%	7%以上									
保健部	生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。	<p>・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防に関する取組を積極的に行う。特に、メンタルヘルスに関する支援の充実、運動時及び部活動時の災害防止に努める。 ・定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。 ・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。 [安全だよりの発行部数を増加]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8部以上</td> <td>6・7部</td> <td>4・5部</td> <td>3部以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8部以上	6・7部	4・5部	3部以下	B	<p>B メンタルヘルスに関する支援の充実に関しては、ケース会議やそこにいたるまでのこまめな情報の共有を行うことができた。 運動時の災害防止については、保健体育科と連携し、特に危険箇所の改善に努めた。 健康診断結果に基づく受診率は、特に眼科について10%向上が見られた。 (全体では35%) [安全だよりの発行部数] 5部 ※2月に+1部 学期ごとの大掃除にあわせて、使用していない教具等の撤去を呼びかけた。 保健委員会の活動では、継続の取組に加え、PTA生活安全部の意見により、校内冷水機の清掃を週1回実施した。 [保健委員の取組の数] 7回</p>
	A	B	C	D								
8部以上	6・7部	4・5部	3部以下									
環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。	<p>・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を確実にし、校内の衛生管理に努める。 ・保健委員による教室の衛生管理、清掃点検、安全点検等の取組を定期的に行う。 [保健委員の取組の数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>6・7回</td> <td>4・5回</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	6・7回	4・5回	3回未満	B		
A	B	C	D									
8回以上	6・7回	4・5回	3回未満									
人権教育部	様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。	<p>学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。 [学校評価アンケート 生徒全員の人権学習に対するプラス評価平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>75%以上</td> <td>75%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	75%以上	75%未満	A	<p>学校評価アンケートにおける高校生のプラス評価は、90%以上であった。 人権学習は各学期に1回行い、人権教育講演会(ワークショップを含む)は、各学年1～2回ずつ第2体育館で行った。事後アンケートでの「とても</p>
A	B	C	D									
90%以上	80%以上	75%以上	75%未満									

<p>各種援護制度の周知と活用を図り、就・修学の保障に努める。</p>	<p>援護制度について、広報や説明会を充実させる。 [さくら連絡網の活用と説明会の実施]</p> <table border="1" data-bbox="745 244 1352 316"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>8回以上</td> <td>7～5回</td> <td>4～2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7～5回	4～2回	1回以下	A	A	<p>よかった」、「よかった」の肯定的な評価は、1年ネットトラブル防止80.6%、障がい者支援98.1%、2年子どもの人権85.1%、3年デートDV防止99.5%、同和問題90.8%であった。1年生では、例年より1回講演会を増やすことができた。</p> <p>さくら連絡網を活用した各種援護制度の広報は、計20回行うことができた。</p> <p>教職員人権研修については、計5回の人権教育講演会に参加することと、職員会議での伝達研修により、充実させることができた。</p>	
A	B	C	D										
8回以上	7～5回	4～2回	1回以下										
<p>教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。</p>	<p>教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。 [教職員人権研修の実施]</p> <table border="1" data-bbox="745 451 1352 523"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	A			
A	B	C	D										
3回	2回	1回	0回										
<p>総務企画部</p>	<p>本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や中学生とその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページ等による情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらようホームページ等の更新に努める。</p>	<p>在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。 [学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等 広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)]</p> <table border="1" data-bbox="745 850 1352 922"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	B	B	<p>本校の教育内容を知ってもらうために、多岐にわたる内容をより積極的にホームページに掲載することができた。また、年度途中にインスタグラムを開設し、定期的に更新することができた。</p> <p>広報物については本校の教育についてわかりやすく伝わるようより工夫して作成することができた。また各種説明会の内容を参加者のニーズにより応えられるようリニューアルすることができた。参加者から高い満足度を得られた一方で、そのことを志願者の十分な増加に繋げることができなかった。</p> <p>年間を通じて部会を定期的に設定するとともに、日常的にコミュニケーションを密にすることで、部員同士の意思疎通を図りながら業務に取り組むことができた。</p>
A	B	C	D										
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満										
<p>分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。</p>	<p>部会を定期的に開催し、日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。 [分掌会議の実施回数]</p> <table border="1" data-bbox="745 1425 1352 1460"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	B	B						
A	B	C	D										
<p>ホームページや広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容を充実させることで、本校の魅力を知ってもらうよう努め、本校全体の志願者の増加を目指す。 [普通科の志願者数]</p> <table border="1" data-bbox="745 1137 1352 1249"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>前年比 +20%以上</td> <td>前年比 +10～20%未満</td> <td>前年比 +1～10%未満</td> <td>前年比 0%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	前年比 +20%以上	前年比 +10～20%未満	前年比 +1～10%未満	前年比 0%以下	C	C	B		
A	B	C	D										
前年比 +20%以上	前年比 +10～20%未満	前年比 +1～10%未満	前年比 0%以下										

		40回以上	35回以上	30回以上	30回未満									
みらい探究部	<p>普通科の総合的な探究の時間「みらい考」について、昨年度に確立した学習計画、探究のサイクルをブラッシュアップし、「課題解決実践」が円滑に進められ、その内容が進路実現に繋がる取組とする。</p>	<p>普通科の探究的な学習の時間の内容を計画・実施し、課題設定力・課題解決力・表現力の育成を組織的・系統的に実施する。 【課題解決実践を通して積極的に社会に対して行動することができたと感じた人数の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>50%以上</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	60%以上	50%以上	50%未満	A	80%	A	<p>みらい考において、進路探究ではキャリア学習を活用した探究型学習を行った。課題探究では「地域活性化」・「福高活性化」をキーワードとして課題解決に向けた探究活動を行った。みらい考Ⅰでは解決のための提案を行ったが、みらい考Ⅱでは、提案を元により具体化して課題解決実践に繋げた。 みらい学Ⅰ、みらい学Ⅱともに、取組内容を「研究活動」として明確に位置づけた。これまでの研究活動の手法をベースとしつつ、大学での研究活動を見据え、理系(MIRAI SCIENCE)文系(MIRAI ARTS)に分け研究を進める形に変更することで理系・文系の特色に沿った指導を行うことが出来た。また、今年度より、研究アドバイザーとして、大学や研究機関の方々に就任いただき、生徒達に将来の探究活動を見据えたサポートやアドバイスをいただける体制を整えた。今後、みらい学ⅠからⅡの研究活動としての接続、テーマの継続、問いの深化、データの扱い方や分析方法等をより高度にしていきたい。 サイエンスガーデンや、サイエンスフェスタなどSSNの取組にも積極的に参加した。土曜講座についても4回実施し、44講座を開設、のべ275名の生徒(附属中生徒含む)が参加し、様々な学びを提供することが出来た。</p>
	A	B	C	D										
	70%以上	60%以上	50%以上	50%未満										
<p>文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学」での研究活動の充実を図り、各研究活動を通して「課題研究リテラシー」の向上、研究内容の充実・深化をはかる。</p>	<p>課題研究に必要なスキル(研究や発表の仕方、情報やデータの処理、評価の方法等)を身に付けるプログラムの工夫・改善を進め、探究課題を科学的に思考・吟味し活用する力を育成するため、外部と積極的に繋がる 【課題研究を通して繋がった外部機関の数】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10以上</td> <td>7以上</td> <td>5以上</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10以上	7以上	5以上	5未満	A	15機関	A		
A	B	C	D											
10以上	7以上	5以上	5未満											
<p>土曜講座、キャリアプログラム(国際理解・地域連携)、WWL後継事業、SSN等の取組を、主体的で協働的な学びの環境として効果的に提供し、これからの新しい時代を生きていくための幅広い学力をつける。</p>	<p>各取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、生徒に新しい価値を見つけ生み出す感性と力を付け、好奇心と行動力の向上をはかる。 【自らの進路実現に向け、役立つ学びを能動的に得ることが出来たと感じた人数の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	80%以上	70%以上	70%未満	A	89%	A		
A	B	C	D											
85%以上	80%以上	70%以上	70%未満											
図書視聴覚部	<p>読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。</p>	<p>学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 [授業での図書館活用回数(みらい学を除く)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	C		<p>みらい考やみらい学では積極的な図書館活用があり、探究活動に必要な資料を提示するなど、学校図書館としての役割を果たすことができた。探究活</p>					
A	B	C	D											

		40回以上   30～39回   20～29回   19回以下											
	P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	<p>P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やP T A活動について「さくら連絡網」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。</p> <p>[保護者対象学校評価アンケートのP T A活動に対するプラス評価]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	60%未満	B	C	<p>動以外では2つの教科による図書館活用があった。より多くの授業で図書館が活用できるように、その方法を模索していく必要がある。</p> <p>[探究活動以外での図書館活用回数20回]</p> <p>朝読書については生徒の読書機会を確保し、学習に集中して取り組む姿勢を確立させるという点で大きな効果があると言える。</p> <p>P T A活動については、会員の皆様の御協力のもと、朝の交通立ち番や進路講演会の運営、校内の安全点検、福高祭での飲料の配布など、各専門部の事業を予定どおり実施することができた。今後も活動が円滑に運営されるよう連携していきたい。</p> <p>[P T A活動に対するプラス評価78.7%]</p>
A	B	C	D										
80%以上	70～79%	60～69%	60%未満										
第1学年部	思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を身につけさせる（感じる力、考える力）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃や整理整頓を心がけ、学習環境を整えさせつつ、家庭学習の習慣を早期に確立させる。</li> <li>・授業を大切にし、予習と復習のサイクルを確立させる。また、苦手教科の克服に取り組ませる。</li> </ul> <p>[1年生全体の評定平均値の平均]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>4.2以上</td> <td>4.1～3.8</td> <td>3.7～3.4</td> <td>3.3以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	4.2以上	4.1～3.8	3.7～3.4	3.3以下	B		<p>各教科の予習、授業、復習のサイクルを何らかの形で確立している生徒の割合は70%であった。授業を中心に学力の伸長を図った結果学年評定平均値は4.13であった。</p> <p>文理選択や進路選択に向け、担任が機会をとらえてきめ細やかな面談を行った結果、60%以上の生徒が自己の目標を定めて努力できたと感じており、全くの進路未定者数は4人であった。</p> <p>挨拶を自分から積極的にできた生徒の割合が43%とまだまだ改善の余地はあるが、学校行事やクラスでの活動に他者と協働して積極的に関わることができたと感じた生徒が95%いて、高校生活がある程度充実して過ごすことができていると考えられる。</p>
A	B	C	D										
4.2以上	4.1～3.8	3.7～3.4	3.3以下										
	自己理解を深め、自らの目標を立て、向上心を持って行動させる（行動する力、向上する力）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣を身につけさせる。</li> <li>・個人面談を重視し、進路目標を明確にさせる。</li> <li>・部活動や諸活動への積極的な参加を促す。</li> </ul> <p>[第2回進路希望調査での進路未定者数]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～6人</td> <td>7～12人</td> <td>13人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～6人	7～12人	13人以上	B	B	
A	B	C	D										
0人	1～6人	7～12人	13人以上										
	他人を思いやり、協働する態度を育てる（関わる力）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつを奨励し、日常的なマナーを身につけさせる。</li> <li>・学校行事や、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</li> </ul>											



		<ul style="list-style-type: none"> <li>常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。</li> </ul> <p>[学校生活の様々な場面で、挨拶を含めたマナーを身につけ、他者と協働して取り組んだ生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90%</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100～90%	89～70%	69～50%	49%以下	B									
A	B	C	D																	
100～90%	89～70%	69～50%	49%以下																	
第2学年部	<p>思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を定着させる（感じる力、考える力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を大切にし、予習と復習のサイクルを確立させる。</li> <li>苦手教科の克服に取り組ませる。</li> </ul> <p>[2年生全体の評定平均値の平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.2以上</td> <td>4.1～3.9</td> <td>3.8～3.5</td> <td>3.4以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>[苦手科目の克服に取り組んでいる生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90%</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	4.2以上	4.1～3.9	3.8～3.5	3.4以下	A	B	C	D	100～90%	89～80%	79～70%	69%以下	C	<p>評定平均値の平均は4.04（1学期普通科3.87、文理科4.37。2学期普通科3.89、文理科4.32）と概ね良いが、学習習慣に課題がある。苦手科目の克服に取り組んだ生徒は73.7%と、1年次の75.4%より減少している。取組の効果を実感している生徒の割合も15%と低い。予習・授業・復習のサイクルを確立できている生徒は、わずか44%である。考査準備の開始時期は、2週間以上前が47%、1週間前32%、数日前20%と全体的に遅い。教師からの働きかけは随時行っているが、実際の取組へとつながっていないことが課題である。</p> <p>ホームルームでの進路指導、進路指導部主催の講演会、個人面談などを通して進路意識を早い時期から高めるとともに、生徒の不安や悩みを早期に察知するよう努めた。進路希望調査での進路未定者数は、4月時点で9名であったが、12月時点では0名に減少した。また、オープンキャンパスや学校説明会への積極的参加を促した。参加した生徒は75.4%であった。</p> <p>研修旅行をはじめ、学校行事やクラスでの活動において、生徒が主体となって企画・運営するなど、各々の役割を果たした。特に文化祭では、各クラスのリーダーを中心に創作演技や演劇の構成や練習計画を考え、協働することが出来た。自己の役割を見つけて活</p>
A	B	C	D																	
4.2以上	4.1～3.9	3.8～3.5	3.4以下																	
A	B	C	D																	
100～90%	89～80%	79～70%	69%以下																	
	<p>自己理解を深め、自らの目標を立て、進路実現に向けて主体的に行動させる（行動する力、向上する力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスや学校説明会への積極的参加を促し、進路目標を具体化させる。</li> <li>個人面談、進路検討会を充実し、進路意識の高揚をはかる。</li> </ul> <p>[第2回進路希望調査での進路未定者数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0人</td> <td>1～6人</td> <td>7～12人</td> <td>13人以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	0人	1～6人	7～12人	13人以上	A									
A	B	C	D																	
0人	1～6人	7～12人	13人以上																	
	<p>他人を思いやり、協働する態度を育てる（関わる力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や、クラスでの活動、部活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</li> <li>常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。</li> <li>ボランティア活動への参加を促す。</li> </ul> <p>[学校生活の諸活動の中で、自己の役割を見つけ、取り組むことができた生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～90%</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>※</p>	A	B	C	D	100～90%	89～70%	69～50%	49%以下	B									
A	B	C	D																	
100～90%	89～70%	69～50%	49%以下																	

		評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。			動した生徒は71%と昨年度の49%から大きく向上した。また、他者と協働できた生徒は89%、両方ができた生徒は61%であった。															
第3学年部	希望進路の実現に向けて生徒一人一人が前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。	<p>自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。 模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立てさせ、入試に向けての意識を高めさせる。 [学年全体の6月進研共通テ模試平均偏差値(英・数・国)]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>58.0以上</td> <td>55.0以上</td> <td>52.0以上</td> <td>52.0未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>[6月進研共通テスト模試A3以上の人数の平均(英・数・国)]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>130人以上</td> <td>100人以上</td> <td>70人以上</td> <td>70人未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満	A	B	C	D	130人以上	100人以上	70人以上	70人未満	B	<p>6月進研共通テ模試平均偏差値(英数国)は52.8であった。また、(英数国)平均が国公立・中堅私立合格レベル相当にあたるA3以上の人数は100人であり、B評価の目標に到達した。さらに難関大合格の目安であるS3以上の人数は31人に達し最上位層の生徒たちも健闘した。</p> <p>二者面談および三者面談を必要に応じて頻繁に実施した結果、早期に目標設定ができた。</p> <p>進路希望調査(4月)で国公立大を志望していた生徒は143名であり、その60%(86名)以上の合格者数となったためA評価とした。</p> <p>新型コロナウイルスが5類に移行し通常の学校生活に戻ったこともあり、学校評価アンケートで[「部活動」および「学校行事」でプラス評価の生徒割合の平均]が89.1%の回答を得た。このことから生徒たちは充実した学校生活であったと感じていると思われる。</p> <p>「福高への誇り」の項目でプラス評価の生徒の割合は、83.9%であり、目標は達成できた。多くの生徒が福高へ入学後、学習活動、課外活動等あらゆる面で充実しており、満足して卒業を迎えることができたと思われる。</p>
		A	B	C	D															
	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満																
A	B	C	D																	
130人以上	100人以上	70人以上	70人未満																	
<p>生徒との面談に重点を置き、関係分掌や教科担当者との連携を密にして、生徒の希望進路実現を図る。 [進路希望調査(4月)で国公立大を志望した生徒の国公立大合格率]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>59~50%</td> <td>49~40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	59~50%	49~40%	40%未満	A											
A	B	C	D																	
60%以上	59~50%	49~40%	40%未満																	
<p>最高学年としての自覚を持たせ、周囲との関わりを大切にしながらダーシップが発揮できる生徒を育てる。</p>	<p>部活動や学校行事等に主体的かつ積極的に関わらせ、福知山高校全体を牽引させる。 [学校評価アンケートで「部活動」および「学校行事」でプラス評価の生徒割合の平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85%以上</td> <td>84~70%</td> <td>69~60%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>[学校評価アンケートで「福高への誇り」の項目がプラス評価の生徒の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87%以上</td> <td>86~72%</td> <td>71~60%</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	85%以上	84~70%	69~60%	60%未満	A	B	C	D	87%以上	86~72%	71~60%	60%未満	A		
A	B	C	D																	
85%以上	84~70%	69~60%	60%未満																	
A	B	C	D																	
87%以上	86~72%	71~60%	60%未満																	

事務部	<p>安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。 [危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B	<p>危険箇所の早期発見に努め、校舎西側及び南側の老朽化が激しい駐輪場の撤去及び北側駐輪場のトタン張り替え等を実施した。 感染症対策として、老朽換気扇の更新及びHR教室に網戸の設置を設置を実施した。 運営費の執行に当たっては、光熱水費が高騰する中、費用対効果を見極めた執行に努めた。 丁寧な窓口・電話対応で、円滑な学校運営に努めた。 限られた予算で、まだ必要な修繕箇所等があり、今後も一層予算確保に努め安心安全な学校づくりに努めたい。</p>
	A	B	C	D								
	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満								
<p>学校経営方針を推進するため、各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し、本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。 [教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B		
A	B	C	D									
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満									
<p>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</p>	<p>府民との窓口になる対応を、丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>	B										
国語科	<p>新学習指導要領や観点別評価への対応に取り組むとともに、ICTの授業での有効活用に努める。</p>	<p>教科内での授業研究や、学校外での研修会への参加を積極的に行い、次の事項を推進する。 ①タブレット等ICT機器の、授業での有効活用 ②新学習指導要領に即した教科指導力の向上 ③観点別評価への対応 [研修会等への年間参加回数] (悉皆研修を除く)</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>16回以上</td> <td>12回以上</td> <td>8回以下</td> </tr> </table> <p>(R 5年度 21回)</p>	A	B	C	D	20回以上	16回以上	12回以上	8回以下	A	<p>ICT機器について、教員側がPowerPointやデジタル便覧、教科書等のPDFを用いて、授業を分かりやすくする工夫はできたが、生徒側が有効活用する場面が不十分であった。使用できるアプリを考え、適宜効果的なタブレットの活用方法を考えていきたい。 観点別評価を適切に運用できるように学年担当者間で協議する中で、授業方法の改善と教科指導力の向上につなげることができた。第3観点の評価については、引き続き検討を要する。 毎週、または定期的に漢字テストと古語テストを実施して「知識・技能」の定着を図った。1年生については助動詞テストも行い古文読解の基礎固めを目指した。語彙テストや考査等に向けて主体的に取り組む生徒と、そうでない生徒にはっきり分かれてしまっており、第1観点の平均点が伸び悩んだ。</p>
	A	B	C	D								
20回以上	16回以上	12回以上	8回以下									
<p>生徒の言語文化に対する関心を深め、「知識・技能」の定着を図る。</p>	<p>「知識・技能」の定着を目指して、小テストや考査等に意欲的に取り組ませる。 [「現代の国語」「論理国語・文学国語・現代文芸」における、第1観点の平均が70%以上であった学年] ※第3学年については、漢字・現代文語彙テストが80%以上であったかで評価する</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>2学年</td> <td>1学年</td> <td>なし</td> </tr> </table> <p>(R 5年度 1年75%、2年65%、3年73%)</p>	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	C		
A	B	C	D									
3学年	2学年	1学年	なし									

		<p>〔「言語文化」「古典探究・古典文学研究」における、第1観点の平均が60%以上であった学年〕 ※第3学年については、古文単語・古典文法テストの平均が70%以上であったかで評価する</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3学年</td> <td>2学年</td> <td>1学年</td> <td>なし</td> </tr> </table> <p>(R5年度 1年50%、2年55%、3年74%)</p>	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	C	C	<p>学習習慣が身につけていない生徒には、考査に向けての具体的な学習方法の指導も必要であった。また、生徒の学習意欲を高めるためには、授業で考えた部分が、しっかりと考査の点数に結びついているという実感を持たせることが必要だと感じた。</p>								
A	B	C	D																		
3学年	2学年	1学年	なし																		
地歴公民科	<p>生徒個々にあわせた希望進路を実現するために必要とされる学力を向上させ、社会的役割の自覚とともに、自立した学習習慣を確立することに努める。</p>	<p>学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上に努める。 〔3年生大学入学共通テスト平均の対全国平均値〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>+6点以上</td> <td>+5点以上</td> <td>+4点以上</td> <td>+3点未満</td> </tr> </table> <p>生徒が主体的に物事を考察し、課題を発見できる教育を進める。 〔発展的な課題発見授業・講演会等の実施数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5・4回</td> <td>3・2回</td> <td>1回</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+6点以上	+5点以上	+4点以上	+3点未満	A	B	C	D	6回以上	5・4回	3・2回	1回	C	B	<p>2024年度大学入学共通テストでは、日本史B+8.27、世界史B+5.07、地理B+0.62、倫・政+0.88、倫理+2.51、政経+4.88といずれも全国平均値（中間発表時点）を上回ったが、地歴公民科全体の平均値は+3.075であった。 発展的課題発見授業は、歴史総合や地理探究、歴史探究の時間において実施できた。 「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法確立に向けての研究授業、研究協議については教科会議においてそれぞれ3回ずつ実施できた。 授業アンケート中の「先生の教え方に工夫が感じられ自分自身の理解が深められている」については、自己評価平均が3.5となった。</p>
	A	B	C	D																	
+6点以上	+5点以上	+4点以上	+3点未満																		
A	B	C	D																		
6回以上	5・4回	3・2回	1回																		
<p>生徒の学習意欲を高めるため、教科内で連携をとり、各人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実施できるように努める。また、観点別評価における「指導と評価の一体化」を推進する。</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法の確立に向けて研究授業を実施し、研究協議を行う。 〔テーマに関する研究授業と研究協議の実施回数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </table> <p>〔授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じられ、自分自身の理解が深められている」に対する生徒の自己評価の平均〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.0~3.5</td> <td>2.5~2.9</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	A	B	C	D	3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下	A	A		
A	B	C	D																		
6回以上	5回	4回	3回以下																		
A	B	C	D																		
3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下																		

数学科	主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。	<p>&lt;1年生&gt; 学習状況の把握と丁寧な指導を行い基礎学力の定着を図る。 [全員模試の平均偏差値の差(1月-7月)]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3以上</td><td>3~0</td><td>0~-3</td><td>-3未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	B	<p>&lt;1年生&gt; ノート提出や小テストを実施し、学習習慣を定着させることが出来た。補習や応用問題を配付するなど学力層に応じた取組ができた。</p> <p>&lt;2年生&gt; 模試の平均偏差値の差(11月-7月)は-0.6であり、目標には届かなかった。主体的に学習を進めて力を伸ばしている生徒もいる一方で、学習スタイルが確立できていない生徒も存在しており、得意な生徒と苦手な生徒の差が広がりつつある。</p> <p>&lt;3年生&gt; 大学入学共通テスト数学I Aの本校の平均点は58.4点であり、対全国平均4点以上上回ることができた。(全国平均54.35 (1/17中間集計)) 健闘したといえる。授業においても受験に向けた指導や対策を充実させることができた。</p> <p>&lt;指導の工夫&gt; 指導の工夫改善は日々行っている。分野によるがICTを活用した授業も適宜行っている。</p>
	A	B	C	D								
	3以上	3~0	0~-3	-3未満								
	<p>&lt;2年生&gt; 学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。 [全員模試の平均偏差値の差(11月-7月)]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3以上</td><td>3~0</td><td>0~-3</td><td>-3未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	C		
A	B	C	D									
3以上	3~0	0~-3	-3未満									
	<p>&lt;3年生&gt; 日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要な学力を充実させる。 [大学入学共通テスト 数学I A 対全国平均]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>4点以上</td><td>4~2点</td><td>2~0点</td><td>0点未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	4点以上	4~2点	2~0点	0点未満	A		
A	B	C	D									
4点以上	4~2点	2~0点	0点未満									
	学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。	<p>ICTの活用についての交流を図る。</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>図れた</td><td>まあまあ図れた</td><td>あまり図れなかった</td><td>図れなかった</td></tr> </table>	A	B	C	D	図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった	B	
A	B	C	D									
図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった									
理科	生徒の希望進路実現に向け、基礎学力の定着並びに思考力、判断力、表現力の育成に努める。	<p>基礎学力を確実に定着させ、生徒全員の進路保障に努める。積極的な授業改善や個に応じた指導内容の工夫を行い、希望進路に応じた学力の充実に努める。 [大学入学共通テストの対全国平均点]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>7点以上</td><td>5点以上</td><td>3点以上</td><td>3点未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	7点以上	5点以上	3点以上	3点未満	B	<p>本校の共通テスト平均点は、物理74.0 (全国Ave +11)、化学60.6 (全国Ave +5.8)、生物60.8 (全国Ave+6.0) で、3科目ともに全国平均を5点以上上回った。特に物理では全国平均を11点上回る結果となった。日々の授業の中で、進度を保ちながらも共通テストを意識した演習に取り組んだ成果が表れた。</p> <p>1・2年生の学習用端末の使用に関しては、教員がプロジェクターを用いて授業を行うことが常態となり、授業進度を速めることや映像を見せること</p>
	A	B	C	D								
7点以上	5点以上	3点以上	3点未満									
	1・2年生においては教科内だけでなく他教科とも実践事例や情報を共有し、学習用端末の活用を推進する。		B									

			C	B	で、わかりやすい授業ができるようになってきた。その一方で、生徒一人ひとりが授業中にタブレットを利用して探究や演習を行うような授業がほぼできなかったことが来年度への課題である。 スーパーサイエンスネットワーク (S SN) 京都の発表会として、6月に「みやこサイエンスエスタで口頭発表1件、11月には「海の京都サイエンスガーデン」でポスター発表10件を行った。また、その他の外部機関主催のイベントでポスター発表2件を行い、高い評価を得た。今後の課題として、探究活動に対して生徒に能動的に取り組ませる手立てや、プレゼン能力の更なる向上が挙げられる。								
		[1・2年生で学習用端末を活用した授業の割合] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>30%以上</td><td>30%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	50%以上	30%以上	30%未満			
A	B	C	D										
70%以上	50%以上	30%以上	30%未満										
	「スーパーサイエンスネットワーク京都」指定校としての取組を生かした本校独自の科学研究プログラムを構築する。 探究活動の成果を外部機関主催の科学コンテスト等で発表し、科学的探究能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。	外部機関主催の発表会で発表した件数 <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>10件以上</td><td>7件以上</td><td>5件以上</td><td>5件未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	10件以上	7件以上	5件以上	5件未満	A		
A	B	C	D										
10件以上	7件以上	5件以上	5件未満										
保健体育科	<体力の向上を図る> 本校生徒の体力は、京都府平均と比較しても、筋力・柔軟性について劣る傾向があるため、体育授業により特にこれらの体力向上を目指すとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	年間を通じた体力向上をねらいとし、各種目で補強運動やトレーニング的な動作及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。 [3学期の授業時において、上体起こしを測定(1・2年男女)し、4月のスポーツテスト時から上昇した人数割合] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>60%以上</td><td>59~50%</td><td>49~40%</td><td>39%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59~50%	49~40%	39%以下	C		授業最初や最後に、各種目に関連する体力向上の動作を必ず実施した。11月~12月初めには持久走、12月中からは、1・2年生がトレーニングと縄跳びを必修として、各自の状況に応じて体力の向上をはかることができているが、上体起こしなどの体幹の筋力向上には至らなかった。(42%) 授業方法の検討については、関連する国や府からの連絡事項や研修会などの資料をSlackや文書回覧で確実に共有するとともに、種目ごとの始め、中、終の時期に各担当間で指導方法や評価方法などを検討した。また、積極的にタブレットを活用し、効果的な方法を教科内で共有した。(教科会議16回、担当間の検討7回)
A	B	C	D										
60%以上	59~50%	49~40%	39%以下										
	<新学習指導要領に即した授業改善> 積極的にICTの活用するなど、効果的な授業方法を検討し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。	それぞれが行った改善点について科内で共有し、目指す力の育成に効果的な授業方法について検討する。[教科会議等で授業改善について検討した回数(1年間)] <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>21回以上</td><td>16~20回</td><td>11~15回</td><td>10回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	21回以上	16~20回	11~15回	10回以下	A	B	両丹総体、学期末、学校祭前などで部活動集合前後に集まるとともに、清掃場所の確認や各種連絡など、折りに
A	B	C	D										
21回以上	16~20回	11~15回	10回以下										
	<運動部活動の活性化> 部活動を通して自己管理能力の育成を図るとともに、責任感、連帯感の涵養、好ましい人間関	福知山高校運動部としての意識を高め、日常生活において挨拶や礼儀等を身に付けるなど、他の模範となる質の高い集団となるよう働きかける。											

	<p>系の育成し、自己肯定感を高める。また、各部活動間の交流を推進し、積極的に物事に取り組む姿勢を学校全体に広げていく。</p>	<p>[キャプテン集合の回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>7～9回</td> <td>6～4回</td> <td>4回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	7～9回	6～4回	4回以下	B	<p>触れて実施したが、横のつながりの構築には至らなかった。(6回)</p>
A	B	C	D									
10回以上	7～9回	6～4回	4回以下									
芸術科	<p>芸術に関わる幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対する理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	<p>&lt;音楽&gt;音楽の幅広い活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽・音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。 [授業アンケートで「分かった」「できた」と思う]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	B	<p>&lt;音楽&gt; 歌唱・器楽では様々な活動を行うことができたが、昨年と同様、鑑賞・創作活動にはあまり時間をかけることができず、幅広い活動とならなかった。また、授業アンケートでの「分かった」「できた」の割合がクラスによって差があったので、どの生徒にとっても充実した授業になるよう授業内容や方法を工夫していきたい。 &lt;美術&gt; 生徒の作品制作過程や参考資料を電子黒板に映しながら、授業を展開することで、生徒が見通しを持って課題に前向きに取り組む姿が見られた。 作品を制作する中で、考えや思いを言葉でまとめたり、交流したりすることで、生徒自身の見方や考え方を深めることにつながった。 &lt;書道&gt; グループワークや鑑賞の時間を設け、自ら気づくこと考えることを軸に授業を展開することができた。 また、個別指導により表現技術の向上に努め、作品制作の取り組みを充実した内容で行うことができた。</p>
		A	B	C	D							
		90%以上	89～70%	69～50%	49%以下							
<p>&lt;美術&gt; 鑑賞・表現の授業改善を行い、見方や感じ方を深め生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 [表現の授業において、ICTを活用した授業改善を行った回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～7回</td> <td>6～3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	9～7回	6～3回	2回以下	B			
A	B	C	D									
10回以上	9～7回	6～3回	2回以下									
<p>&lt;書道&gt; 主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。 [授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合(回答4)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	B			
A	B	C	D									
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下									
英語科	<p>多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの</p>	<p>家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。 [3年生共通テスト平均点の対全国平均値]</p>		<p>共通テストの全国平均(大学入試センター集計)は、リーディングが51.54点(100点満点)、リスニングが67.24点</p>								

	幅広い学力を養成する。	<p>*リーディング100点+リスニング100点の計200点満点</p> <table border="1" data-bbox="757 172 1323 244"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>+20点以上</td> <td>+19~10点</td> <td>+9~0点</td> <td>マイナス</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+20点以上	+19~10点	+9~0点	マイナス	A									
A	B	C	D																	
+20点以上	+19~10点	+9~0点	マイナス																	
	「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の確かな学力を育むための授業改善に取り組む。	<p>新学習指導要領に即した授業や評価を実践すると同時に、ICT機器を効果的に利用したより効果的な指導を実現するため、教科内で一致して研修を進める。</p> <p>[新学習指導要領やICT活用に関する教科内研修の回数]</p> <table border="1" data-bbox="757 539 1323 611"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5~4回</td> <td>3~2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	5~4回	3~2回	1回以下	A	<p>(100点満点)で、本校の平均はリーディングが63.1点、リスニングが75.8点であった。よって、リーディングとリスニングの合計で本校の平均は全国平均を20.12点上回るという結果となった。(本校平均点138.9点/全国平均点118.78点)</p> <p>教科会議や研究授業及びその合評会の場で指導や評価の方法について研修を深めることができた。また、校外やオンラインで行われた研修での内容を積極的に共有し、教科全体で指導力向上の取組を実施した。</p>								
A	B	C	D																	
6回以上	5~4回	3~2回	1回以下																	
家庭科	<p>実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。</p>	<p>授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的・体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図るとともに5K力に基づいた振り返りを行う。</p> <p>[5K力に基づいた振り返りの実施回数(割合)]</p> <table border="1" data-bbox="757 786 1323 858"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table> <p>「子育て学習プログラム」の実施を通して生徒の出産・子育て・人生設計について生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。</p> <p>[意識の変容が見られたと解答した生徒(割合)]</p> <table border="1" data-bbox="757 1026 1323 1098"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79~60%</td> <td>59~50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~50%	49%以下	A	B	C	D	80%以上	79~60%	59~50%	49%以下	B	<p>単元ごと、授業ごとにねらいの提示はできた。また、昨年度に増して、体験的な活動や問題解決的な学習に取り組むことができたが、ふりかえり項目に5K力を毎回入れることはできなかった。</p> <p>A 保育では、赤ちゃん交流や保育園実習を含め、「子育て学習プログラム」を活用できた。また、生徒の意識変容についてのアンケートでは約95%と高く、対面で交流できたことが印象に残っていると答えた生徒が多かった。</p> <p>実習の時間をしっかり確保すると実習後のレポートを授業内で取り組むことが難しくなり、課題にすると、提出率が悪くなったり、レポートの内容がうすくなりがちだったので、来年度は考えたい。</p>
A	B	C	D																	
80%以上	79~60%	59~50%	49%以下																	
A	B	C	D																	
80%以上	79~60%	59~50%	49%以下																	



<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績や探究活動、部活動等では着実に実績を残しているが、学びのペースが生徒の負担になっているという負のイメージが先行している。生徒募集に向けて良いイメージを作っていく必要がある。</li> <li>・学校経営計画から本校における教育活動の安定感を感じる。ただ、評価が厳しすぎると感じるので教職員のモチベーションの面からも評価方法を再考してみるのも一つの方法である。</li> <li>・生徒や保護者の意見を真摯に受け止めている様子が窺える。できていない点ばかりに着目するのではなく、生徒がどれだけ伸びたかといった視点から成果があれば教職員全体で共有する事が次への活力に繋がっていく。</li> <li>・中高の繋がりでは、中学生側からすると先輩に教えてもらおうと刺激になり、高校生側からすると教えることで理解が深まる側面がある。そういった意味では土曜講座等を活用して定期的に学び合いの場を設定するとwin-winの関係ができるはずである。</li> <li>・探究的な学びを活用した附属中との連携は進んできているが、さらに分校の探究活動も本校や附属中と同じように「みらい〇〇」という名称にするなど、より本校と分校の連携を進めていくべきではないか。</li> <li>・探究活動を通じて地元のことを深く知ることによって地元への愛着を強く感じ、この恩を将来自分が地元に戻していきたい。といった感想を生徒がもつのは深い学びを得たという成果である。</li> <li>・ホームページが充実していて、生徒たちがいきいき学校生活を送っている様子が伝わってくる。また、校外での各種取組を通じて生徒の自己肯定感が高まっている様にも感じる。さらにその様子を伝えるためのプッシュ型の発信を進めるべきではないか。</li> <li>・評価の際には、「評価を集めて終わり」にならぬよう全体にフィードバックしその評価を次に生かしていくことが重要である。</li> <li>・情報発信として、学校便りをHPの見やすい位置への設置、本校HPから附属中や分校への接続するバナーの設置など工夫して情報提供する必要がある。</li> </ul>
------------------------	---

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導や学校の取組の良いところは継承しつつも、全ての生徒が学びのペースに付いけるように生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立していく。</li> <li>・各種行事や部活動、生徒会活動等での協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではの「福高コラボ」を一層推進していく。</li> <li>・プッシュ型の発信としてSNSの活用が考えられる。様々なリスクも考えられるがこれまでの発信方法を大切にしつつも挑戦して行きたい。また、小中学校に出向いて、福高生が活躍する場を設けることを模索したい。</li> <li>・校内の連携を進めていくためのツールとして探究活動が有効との助言を受け、来年度、開催する予定の本校で高校と附属中が探究活動において交流する「探究DAY（仮称）」に分校にも参加してもらえるように計画したい。</li> <li>・教職員の資質・能力の向上と学校全体の教育力向上のため、学校組織の業務改善と効率化を図っていく。</li> <li>・学級活動や学校行事、部活動、伝統文化体験授業等を通して、健やかな身体と豊かな人間性を育成していくとともに、人権意識や規範意識、思いやりの心を育んでいく。</li> <li>・全教職員が危機管理意識を高めるとともに、防災意識を生徒・保護者・教職員が共通認識をもち、学校全体として安心・安全な学校を作っていく。</li> <li>・家庭との連携を密にして信頼関係を築くとともに、地域学習や地域連携活動等を通して、家庭・地域・関係機関との連携の強化を図っていく。</li> </ul>
----------------------	--